

ウクライナ侵攻による日本住宅への影響

●ウッドショック

ロシアのウクライナ侵攻が長期化しており、世界経済における物流が変化しつつあります。その中で日本国内の住宅づくりに影響が出始めているのが、木材の供給不足です。日本は、ロシアから合板（木造住宅の壁や床）の材料を8割ほど輸入しています。ロシアに対する経済制裁により、木材の輸入量減少したことが今回の木材価格の高騰に繋がっています。

●設備関係のもの不足

木材だけでなく、家づくりで使われるアルミサッシやステンレスの流し台に使われるニッケルなどもロシアからの輸入に頼っています。また、コロナ禍による半導体不足は継続しており、設備関係の値上がりも続いている状況です。住宅に関するあらゆるものの値段が上がっており、今後の住宅価格の動向には注意が必要です。

不動産市況は、高値水準を維持しており、価格の下落の可能性が高いと言われておりましたが、建築資材の高騰により、さらなる高騰も予想されています。